

ブルキナファソ教育支援プロジェクトのご報告

ブルキナファソ事務所から、日本の皆さまからのご寄付によって進められているプロジェクトの報告が届きました。皆さまからのご寄付により、子どもたちの学習環境が整えられ、たくさん子どもたちが学校に通い、日々多くのことを学んでいます。子どもたちへのご支援に心より感謝申し上げますと同時に、引き続きあたたかいご協力をお願い申し上げます。

実施期間：2014年7月～2014年12月 支援対象地域：ガンズルグ州・ナメンテンガ州

学校内で清潔に 過ごすために

地質上、地下水の利用ができない5つの学校で雨水を貯めて利用する貯水システムを導入し、10立方メートルのタンクを含む10基の雨水貯水設備を設置しました。貯められた水は浄水処理し、1,500人の子どもたちが手洗いや清掃で利用しています。特にトイレ使用後の手洗いはコレラやエボラなどの感染症の予防策となっています。



水はトイレの清掃にも大切に活用されています

夜間でも家で子どもたちが学べるように

2015年中に太陽光発電式のライトを子どもたちに配布する準備のため、39校の507人の先生を対象に太陽光発電式のライトの使いかたやメンテナンス方法、家庭での学習についての指導方法について研修を行いました。ブルキナファソの農村部の多くの家庭にはまだ電気が通っていないため、ライトを配布することで、暗くなった後でも子どもたちが家で勉強できるようになります。

植物の栽培を通して子どもたちが学べるように

学校内にある庭園を子どもたちが整備するための道具（シャベル、熊手、植木鉢、バケツなど）を50校の学校に提供しました。子どもたちは、植物栽培を通して植物の成長と食物生産を学ぶと同時に、育てた野菜を給食の食材に利用することで栄養について学ぶこともできます。砂漠化が進むブルキナファソで植物の栽培を学ぶことは子どもたちにとって大切なことです。



植物の水やりは子どもたちの大切な日課になりました



植えたばかりの若木を守るために、木の周りをレンガで囲います

保護者や地域の人々と連携するために

405校の学校の保護者や地域住民を対象に、地域の子どもの教育について啓発活動を行いました。放課後に子どもたちが学校の宿題など勉強にあてる時間を持てるように呼びかけたほか、地域の全ての就学年齢の子どもが就学し卒業できるよう、また学校運営への参加を重点的に呼びかけました。



以前は子どもたちが学校から帰ってくると、たくさん家の手伝いをさせていました。今は、学校に通う子どもたちにどう接すれば良いのか研修を受けたことで、子どもたちが家で勉強する時間が必要なることを理解しました。
二人の子どものお母さん
ガネトレさん

女子教育を推進するために

早期幼児ケア（幼稚園や保育園）100校の先生を対象に、ジェンダーに配慮して子どもたちと接することができるように研修を行いました。幼いうちから子どもたちが「男の子は女の子より優れている」「女の子は算数や理科が苦手」などの偏見を持つことがないように指導しています。また、経済的な理由などで、初等教育や中等教育を受けることが難しい女の子たちが修了できるように、学生寮の整備や勉強の遅れを取り戻すための補修授業などを支援しました。

写真 ©UNICEF / Burkina Faso

発行日：2015年10月1日

発行者：公益財団法人 日本ユニセフ協会（ユニセフ日本委員会）

〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス

☎ 0120-88-1052（通話料無料）【受付時間】平日9:00～18:00

ホームページ <http://www.unicef.or.jp>

Twitter、Facebookもご覧ください。 @UNICEFinJapan unicefinjapan

unicef 